

平成 27 年 2 月 24 日
内 閣 府
原 子 力 政 策 担 当 室

第 16 回アジア原子力協力フォーラム（FNCA） コーディネーター会合の開催について（案）

平成 27 年 3 月 4 日（水）～3 月 5 日（木）、三田共用会議所にて、第 16 回アジア原子力協力フォーラム（FNCA^{※1}）コーディネーター会合を開催いたします。今次会合では、プロジェクトの活動報告、評価及び今後の計画について議論をする予定です。

※1 我が国が主導するアジア地域の原子力技術の平和的で安全な利用を進めるための協力フォーラムであり、コーディネーター会合は、自国におけるプロジェクトの実施に責任を持ち、協力活動全体を総括して参加国相互の連絡調整を行う役割を担う各国コーディネーターにより、年一回プロジェクトの実施状況を評価・レビューするとともに、全体計画の討議を行うものです。（ウェブサイト：<http://www.fnca.mext.go.jp/>）

1. 主 催 内閣府 原子力委員会
共 催 文部科学省

2. 開催日 平成 27 年 3 月 4 日（水）～3 月 5 日（木）

3. 開催場所 三田共用会議所 国際会議室

4. 参加予定国

オーストラリア、バングラデシュ、中国、インドネシア、日本^{※2}、カザフスタン、韓国、マレーシア、モンゴル、フィリピン、タイ、ベトナム

※2 日本からは、平将明内閣府副大臣、岡芳明原子力委員会委員長及び原子力委員会委員、町末男 FNCA 日本コーディネーター、国内各プロジェクトリーダー、関係者が出席予定。

以上

第16回アジア原子力協力フォーラム（FNCA） コーディネーター会合プログラム

日 付：平成27年3月4日（水）－5日（木）
場 所：三田共用会議所
主 催：内閣府 原子力委員会
共 催：文部科学省

平成27年3月4日（水）

プレスオープン部分（9：30～10：05）

セッション1：開会（9:30～10:05）

- ・挨拶（平 将明 内閣府副大臣、岡 芳明 原子力委員会委員長）
- ・参加者紹介
- ・アジェンダの確認
- ・集合写真

セッション2：2014年度のFNCA会合報告（10:05～10:30）

- ・報告（第15回FNCA大臣級会合、第6回パネル会合）

セッション3：放射線利用開発-第1部（10:50～11:40）

- ・プロジェクトの成果報告

セッション4：原子力安全強化・原子力基盤強化（12:40～14:20）

- ・プロジェクトの成果報告

セッション5：研究炉利用開発（14:20～15:10）

- ・プロジェクトの成果報告

セッション6：放射線利用開発-第2部（15:30～16:20）

- ・プロジェクトの成果報告

平成27年3月5日（木）

セッション7：放射線利用の展望（9:30～11:00）

セッション8：第15回大臣級会合のフォローアップ項目に関する討議

（11:20～12:30）

セッション9：IAEA/RCAの活動とFNCAとの協力（13:20～13:50）

セッション10：FNCAプロジェクトの今後の活動について（13:50～15:20）

セッション11：閉会（15:40～16:20）

第 16 回 FNCA コーディネーター会合海外参加者一覧

① オーストラリア

- 1) Mr. Peter McGLINN(ピーター・マックグリン)
オーストラリア原子力科学技術機構(ANSTO) 国際関係シニアアドバイザー
- 2) Mr. Jarrod Ian POWELL(ジャロド・イアン・パウエル)
オーストラリア原子力科学技術機構(ANSTO) 政府・国際関係アドバイザー

② バングラデシュ

- 1) Dr. Md. Saidul ISLAM(モハメド・サイドウル・イスラム)
バングラデシュ原子力委員会(BAEC) 委員(生物科学)
- 2) Dr. Md. Abdus SALAM(モハメド・アブダス・サラーム)
バングラデシュ原子力委員会(BAEC) 原子力研究所(AERE)
研究炉センター(CRR) センター長

③ 中国

- 1) Mr. LIU Guanghui(リウ・グァンフイ)
中国国家原子能機構(CAEA) 国際合作司 副司長

④ インドネシア

- 1) Dr. Anhar Riza ANTARIKSAWAN(アンハー・リザ・アンタリクサワン)
インドネシア原子力庁(BATAN) 副長官
- 2) Dr. Darmawan DARWIS(ダルマワン・ダルウィス)
インドネシア原子力庁(BATAN) アイソトープ・放射線利用センター
放射線加工部 部長

⑤ カザフスタン

- 1) Dr. Erlan BATYRBKOV(エルラン・バティルベコフ)
カザフスタン国立原子力研究センター(NNC) 総裁
- 2) Mr. Yevgeniy TUR(エフゲニー・ツール)
カザフスタン国立原子力センター(NNC) 上級技術者

⑥ 韓国

- 1) Mr. LEE Young Wook(イ・ヨンウク)
韓国核不拡散核物質管理院(KINC) 総務部長
- 2) Ms. CHOI Jae Eun(チェ・ジェウン)
韓国原子力国際協力財団(KONICOF) 上級研究員

⑦ マレーシア

- 1) Dr. Muhd Noor MUHD YUNUS(モハメド・ノール・モハメド・ユナス)
マレーシア原子力庁(Nuclear Malaysia) 副長官(研究技術開発プログラム部門)
- 2) Dr. Khairuddin Bin ABDUL RAHIM(カイルディン・ビン・アブドゥル・ラヒム)
マレーシア原子力庁(Nuclear Malaysia) 農業技術・バイオ科学部 部長
- 3) Dr. Sobri Bin HUSSEIN(ソブリ・ビン・フセイン)
マレーシア原子力庁(Nuclear Malaysia) 農業技術・バイオ科学部 研究員

⑧ モンゴル

- 1) Mr. NOROV Tegshbayar(ノロブ・テグシュバヤル)
モンゴル原子力庁(NEA) 長官
- 2) Ms. TSERENDORJ Munkhjargal(ツェレンドルジ・ムンクジャルガル)
モンゴル原子力庁(NEA) 海外協力部 専門家

⑨ フィリピン

- 1) Dr. Alumanda M. DELA ROSA(アルマンダ・M・デラ・ローサ)
フィリピン原子力研究所(PNRI) 所長
- 2) Dr. Miriam Joy CALAGUAS(ミリアム・ジョイ・カラガス)
ホセ・R・レイズ記念メディカルセンター 理事長

⑩ タイ

- 1) Dr. Somporn CHONGKUM(ソンポーン・チョンクム)
タイ原子力技術研究所(TINT) 所長
- 2) Mr. Chanatip TIPPAYAKUL(チャナティプ・ティツパヤクル)
タイ原子力技術研究所(TINT) 原子力技術者
- 3) Ms. Nipavan PORAMATIKUL(ニパヴァン・ポラマティクル)
タイ原子力技術研究所(TINT) 研究開発部 部長
- 4) Ms. Kanchalika DECHATES(カンチャリカ・デチャテス)
タイ原子力技術研究所(TINT) 国際協力課 課長

⑪ ベトナム

- 1) Dr. CAO Dinh Thanh(カオ・ディン・タン)
ベトナム原子力研究所(VINATOM) 副所長
- 2) Dr. HO Manh Dung(ホー・マン・ドゥング)
ベトナム原子力研究所(VINATOM) ダラト原子力研究所(NRI)
主任研究員

⑫IAEA/RCA<オブザーバー>

- 1) Mr. CHOI Kun Mo(チェ・クンモ)
RCA 地域事務所 所長

第 16 回 FNCA コーディネーター会合出席の国内参加者一覧

<内閣府>

- ・ 平 将明 内閣府副大臣
- ・ 岡 芳明 原子力委員会委員長
- ・ 阿部 信泰 原子力委員会委員
- ・ 中西 友子 原子力委員会委員
- ・ 中西 宏典 大臣官房審議官(科学技術・イノベーション担当)
- ・ 室谷 展寛 内閣府政策統括官(科学技術・イノベーション担当)付
参事官(原子力担当)
- ・ 野口 康成 内閣府政策統括官(科学技術・イノベーション担当)付
参事官(原子力担当)付 企画官

<文部科学省>

- ・ 山村 司 研究開発局核不拡散科学技術推進室 室長

<コーディネーター・プロジェクトリーダー>

- ・ 町 末男 FNCA 日本コーディネーター
(独)日本原子力研究開発機構(JAEA) フェロー)
- ・ 中井 弘和 静岡大学 名誉教授 元副学長
- ・ 安藤 象太郎 (独)国際農林水産業研究センター(JIRCAS)
熱帯・島嶼研究拠点総合防除プロジェクト プロジェクトリーダー
- ・ 玉田 正男 (独)日本原子力研究開発機構(JAEA)原子力科学研究部門
高崎量子応用研究所 所長
- ・ 辻井 博彦 (独)放射線医学総合研究所 フェロー
- ・ 神永 雅紀 (独)日本原子力研究開発機構(JAEA)
大洗研究開発センター 照射試験炉センター 副センター長
- ・ 海老原 充 首都大学東京 大学院 理工学研究科 分子物質化学専攻 教授
- ・ 村山 洋二 (独)日本原子力研究開発機構(JAEA) 原子力科学研究部門
原子力科学研究所 研究炉加速器管理部 部長
- ・ 小佐古 敏荘 東京大学 大学院 工学系研究科 原子力専攻 教授
- ・ 山下 清信 (独)日本原子力研究開発機構(JAEA) 原子力人材育成センター
原子力人材育成統括アドバイザー
- ・ 千崎 雅生 (独)日本原子力研究開発機構(JAEA)
特任参与(総合支援センター、核不拡散/核セキュリティ担当)

* 平成 27 年 2 月 24 日時点のものであり、今後変更となる場合があります。

アジア原子力協力フォーラム (FNCA : Forum for Nuclear Cooperation in Asia) の概要

1. 概要及び目的

積極的な地域のパートナーシップを通して、原子力技術の平和的で安全な利用を進め、社会・経済的發展を促進することを目指す。

2. 参加国

オーストラリア、バングラデシュ、中国、インドネシア、日本、カザフスタン、韓国、マレーシア、モンゴル、フィリピン、タイ、ベトナムの全12か国（この他にIAEAがオブザーバー参加）

3. 経緯

平成2年から原子力委員会が主催し開催してきた、近隣アジア諸国の原子力関係者が一堂に会し、情報交換及び地域協力のあり方を議論する場であった「アジア地域原子力協力国際会議」を発展的に改組し、平成11年4月に「アジア原子力協力フォーラム」が発足した。

<原子力政策大綱における位置付け（アジア諸国との協力部分）>

我が国が主体的・能動的に協力を行う国・地域は、地政学的にも経済的にも緊密な関係を有するアジアを中心とする。(略) これらの協力に当たっては、相手国の自主性を重んじ、パートナーシップに基づくことを基本として、例えばアジア原子力協力フォーラム(FNCA)、IAEAのアジア原子力地域協力協定(RCA)といった多国間の枠組みや、二国間及び国際機関を通じた枠組みを目的に応じて効果的に利用することが適切である。

(参考)「アジア地域原子力協力国際会議」は平成2年、アジア地域での放射線利用や研究炉での利用の推進に貢献するために、日本主導で設立された。平成10年、これまでの協力活動全体を総括し、内外との連絡・調整を行う「コーディネーター」を各国から選任し、その下で専門的見地から活動する「プロジェクトリーダー」を協力分野ごとに選任し、より組織的な協力活動を進めることのできるFNCA新体制に移行した。

4. 枠組み

(1) 大臣級会合

各国の原子力を所管する大臣級代表が出席して、原子力技術の平和利用に関する地域協力のための政策対話を行う。なお、大臣級会合を補佐するための上級行政官会合を付設。日本と参加国で交互に毎年1回開催。

(開催実績)

開催日時・場所	我が国代表出席者	主な議論のテーマ
第1回 平成12年11月 タイ	大島科学技術庁長官	・原子力利用の推進 ・原子力安全 ・地域原子力協力の推進
第2回 平成13年11月 東京	尾身科学技術政策担当大臣	・持続可能な発展と原子力 ・放射線利用分野における協力のあり方
第3回 平成14年10月 韓国	細田科学技術政策担当大臣	・人材養成戦略 ・持続可能発展と原子力
第4回 平成15年12月 沖縄	茂木科学技術政策担当大臣	・放射線・ラジオアイソトープ利用の社会・経済的効果の増大 ・持続可能な発展と原子力エネルギー
第5回 平成16年12月 ベトナム	棚橋科学技術政策担当大臣	・アジアにおける原子力人材育成に関する協力 ・FNCAの今後のあり方
第6回 平成17年12月 東京	松田科学技術政策担当大臣	・アジアにおける原子力人材育成に関する協力 ・科学技術と原子力
第7回 平成18年11月 マレーシア	平沢内閣府副大臣	・アジアの持続的発展における原子力エネルギーの役割 ・原子力エネルギーの広報
第8回 平成19年12月 東京	岸田科学技術政策担当大臣	・原子力エネルギーの平和利用への取組みとFNCA活動 ・放射線利用を中心としたFNCA活動
第9回 平成20年11月 フィリピン	増原内閣府副大臣	・原子力発電の基盤整備のための協力 ・放射線利用のさらなる促進のための協力
第10回 平成21年12月 東京	菅科学技術政策担当大臣	・原子力エネルギー利用促進のためのさらなる協力 ・放射線・アイソトープ応用促進のためのさらなる協力
第11回 平成22年11月 中国	和田内閣府大臣政務官	・原子力エネルギー利用促進のためのさらなる協力 ・放射線・アイソトープ応用促進のためのさらなる協力
第12回 平成23年12月 東京	細野内閣府特命担当大臣 中塚内閣府副大臣	・基盤整備(人材養成と広報) ・放射線・アイソトープ応用促進のための協力
第13回 平成24年11月 インドネシア	白眞勲内閣府副大臣	・FNCAの役割
第14回 平成25年12月 東京	山本内閣府特命担当大臣	・FNCAプロジェクトの成果の活用 ・核セキュリティ文化の醸成
第15回 平成26年11月 シドニー	阿部原子力委員会委員長代理	・多目的研究炉の活用のための戦略

(2) コーディネーターとコーディネーター会合

自国におけるFNCAプロジェクトの実施に責任を持つとともに、協力活動全体を総括して参加国相互の連絡調整を行う役割を持つコーディネーターが各国から1名選任されている。プロジェクトの実施状況を評価・レビューするとともに、全体計画を討議するため、コーディネーター会合を年1回日本で開催。日本のコーディネーターは町末男原子力研究開発機構フェロー。

(開催実績)

○第 1 回	コーディネーター会合	平成 12 年 3 月	東京
○第 2 回	コーディネーター会合	平成 13 年 3 月	東京
○第 3 回	コーディネーター会合	平成 14 年 3 月	東京
○第 4 回	コーディネーター会合	平成 15 年 3 月	沖縄
○第 5 回	コーディネーター会合	平成 16 年 3 月	東京
○第 6 回	コーディネーター会合	平成 17 年 3 月	東京
○第 7 回	コーディネーター会合	平成 18 年 3 月	東京
○第 8 回	コーディネーター会合	平成 19 年 2 月	東京
○第 9 回	コーディネーター会合	平成 20 年 3 月	東京
○第 10 回	コーディネーター会合	平成 21 年 3 月	東京
○第 11 回	コーディネーター会合	平成 22 年 3 月	東京
○第 12 回	コーディネーター会合	平成 23 年 3 月	福井 (中止)
○第 13 回	コーディネーター会合	平成 24 年 3 月	福井
○第 14 回	コーディネーター会合	平成 25 年 3 月	東京
○第 15 回	コーディネーター会合	平成 26 年 3 月	東京

(3) 検討パネル

平成 16 年から平成 18 年の 3 か年間「アジアの持続的発展における原子力エネルギーの役割」検討パネル（第 1 フェーズ）を開催し、アジア地域における長期的な環境問題への対応やエネルギー資源の確保の面から原子力エネルギーの役割を評価した。

その結果を受け、第 2 フェーズとして平成 19 年から平成 20 年の 2 か年間「アジアの原子力発電分野における協力に関する検討パネル」を開催し、1) 原子力発電分野における人材養成、2) 原子力発電にかかわる安全確保のための基盤整備について議論を行なった。平成 20 年 11 月にマニラで開催された第 9 回 FNCA 大臣級会合では、第 3 フェーズとして平成 21 年から「原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネル」を開催することが決定された。第 6 回パネル会合にて、第 3 フェーズの終了と第 4 フェーズとして、原子力発電およびそれ以外の原子力応用の両領域での政策課題、技術課題及び国際協力を討議することが決定された。

(開催実績)

■第 1 フェーズ

「アジアの持続的発展における原子力エネルギーの役割検討パネル」

○第 1 回	パネル会合	平成 16 年 10 月	東京
○第 2 回	パネル会合	平成 18 年 1 月	東京
○第 3 回	パネル会合	平成 18 年 11 月	敦賀

■第 2 フェーズ

「アジアの原子力発電分野における協力に関する検討パネル」

○第 1 回	パネル会合	平成 19 年 10 月	東京
○第 2 回	パネル会合	平成 20 年 9 月	東京

■第3フェーズ

「原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネル」

- 第1回 パネル会合 平成21年 7月 東京
- 第2回 パネル会合 平成22年 7月 韓国
- 第3回 パネル会合 平成23年 7月 インドネシア
- 第4回 パネル会合 平成24年 7月 タイ
- 第5回 パネル会合 平成25年 8月 東京
- 第6回 パネル会合 平成26年 8月 ハノイ

(4) 個別プロジェクトについての協力活動

FNCAの下で、放射線利用開発、研究炉利用開発、原子力安全強化、原子力基盤強化の分野で10のプロジェクトを展開している。プロジェクト毎に各国1名のプロジェクトリーダーが任命されており、プロジェクトリーダーは、自国におけるプロジェクト活動の取りまとめを実施している。プロジェクト毎に、通常年1回のワークショップ等を開催し、それぞれの国の進捗状況と成果を発表・討議して、今後の協力や実施計画を策定する。

5. FNCAの主な成果例

○以下のプロジェクトの推進において、FNCAは重要な役割を果たしている。

・放射線育種プロジェクト

放射線照射による突然変異育種技術を用いて、アジア地域においてニーズの高い農作物の耐旱性、耐虫性、耐病性に優れた新品種を開発。多収・耐旱性に優れたソルガム・ダイズを中国、インドネシア、ベトナムで新品種登録。耐病性のバナナ品種がマレーシア、フィリピンで商用化利用。耐旱性・多収イネ品種がバングラデシュ、ベトナムで品種登録済み。現在、肥料、農薬の多用を避ける資源低投入型の稲品種の開発を推進中。

・バイオ肥料プロジェクト

化学肥料の利用低減を目的として、放射線滅菌により効果の高いバイオ肥料を開発。マレーシア、インドネシア、フィリピンにて高品質なバイオ肥料を開発。

・放射線治療プロジェクト

アジア地域にて罹患率の高いがんのプロトコル（標準治療手順）の確立を目的とし、前例のない規模の多国間共同臨床試験にてアジア人の体格、経済事情を考慮した標準治療法を確立し継続的に更新中。加盟国の17の病院で標準治療法として用いられ、治療生存率は他の国際的な臨床試験成績と同等かそれ以上のもの。

○その他、FNCAの提言を受け、全参加国で原子力人材育成のネットワークを構築。

「ANTEP」と呼ばれるデータベースを構築し共有化することで、参加国の人材育成ニーズと研修プログラムをマッチングすることに成功。